

令和2年度 シラバス

愛媛県立津島高等学校

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2	学年	1年	類型	—
教科書	家庭総合 自立・共生・創造(東京書籍)			副教材	家庭総合学習ノート(東京書籍)				

学期	月	単元名	指導項目、内容	評価の観点				学習のねらい・学習の目標・評価の観点
				①	②	③	④	
1 学期	4	家庭科の学び方	学校家庭クラブ活動とホームプロジェクト	◎				<p>学習のねらい</p> <p>1 学期は、人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会のかかわりについて学び、男女が相互に協力して、家族の一員としての役割を果たしていくことの重要性について認識するとともに、生活設計を考えます。</p> <p>2 学期は、被服実習を通して、衣服の構成、縫製技術について学びます。衣生活の文化に関心を持ち、必要な技術を習得して充実した衣生活を営むことができるようになります。また、高齢者の心身の特徴と生活、高齢者の福祉などについて知るとともに、介護の基本を体験的に学びます。</p> <p>3 学期は、子どもの発達と保育、子どもの福祉などについて学ぶとともに、親の役割と保育の重要性を理解します。</p>
		第1章 自分らしい人生をつくる	1 生涯発達の視点 (1) 人は生涯を通して発達する (人生の色イメージ)		◎	○		
			2 青年期の課題 (1) 自分について考える (2) 自立について考える	◎			○	
			3 目標を持って生きる (1) 人生90年時代を生きる (2) 一人で暮らす	○	◎			
	5		4 人生をつくる (3) パートナーと生きる (4) 子どもと暮らす・親を支える		○		◎	
			5 家族・家庭を見つめる (1) 家族・家庭をどうとらえるか (2) 社会の中の家族・家庭 (3) 家族と法律		○		◎	
			6 これからの家庭生活と社会 (1) 男女で担う家庭生活 (2) 家庭生活と地域社会	○	◎			
	6	第7章 衣生活をつくる	1 被服の役割を考える (1) 高校生と衣生活 (2) 着るとは (3) 被服の役割		◎		○	
			2 被服を入手する (1) 被服の入手 (2) 被服と表示 (3) 被服の材料		○		◎	
			3 被服を管理する (1) 被服の手入れ (2) 洗濯漂白 (3) 仕上げ、保管	○		○	◎	
		期末考査	○	○	○	◎	学習の目標	
7		4 被服を作る	縫い方の基礎練習被服製作実習 エプロン ①裁断	○		◎		<p>人の一生と家族、高齢者の生活と福祉、衣生活、保育などに関する知識と技術を総合的に学び、家庭生活の充実向上を図る能力や実践的な能力を身に付けます。</p>
			②ポケット口	○		◎	○	
2 学期	8							<p>評価の観点</p> <p>① 関心・意欲・態度</p> <p>人の一生とのかかわりの中で、家族・家庭、高齢者の生活と福祉、衣生活、保育などに関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組んでいるか。</p> <p>② 思考・判断・表現</p> <p>人の一生とのかかわりの中で、家族・家庭、高齢者の生活と福祉、衣生活、保育などを見直し、よりよい生活を工夫しているか。</p> <p>③ 技能</p> <p>人の一生とのかかわりの中で、家族・家庭、高齢者の生活と福祉、衣生活、保育などに関する基礎的・基本的な技術が身に付いているか。</p> <p>④ 知識・理解</p> <p>人の一生とのかかわりの中で、家族・家庭、高齢者の生活と福祉、衣生活、保育などに関する総合的な知識が身に付き、理解できているか。</p>
			②肩ひも ③すそ	○		◎		
			④脇カーブ・後ろ脇はし	○		◎		
			⑤ポケット付け	○		◎		
	9		⑥前見返し	○		◎		
			⑦ひもつけ	○		◎		
	10		⑨巾着袋	○		◎		
			5 衣生活の文化と知恵 (1) 生活文化と被服 (2) 繰り回しの知恵	○	◎			
	11		6 これからの衣生活 (1) 資源としての衣服 (2) 衣生活と環境	○	◎			
			【地域の防災力を高めよう】 非常持ち出し袋作り	◎		○		
		” 期末考査	◎		○			
12	第3章 高齢社会を生きる	1 高齢期を理解する (1) 人の一生と高齢期 (2) 高齢社会の現状と課題	○			◎		
			○	○		◎		
3 学期	1		2 高齢者の心身の特徴 (1) 老化と成熟 (2) 多様な高齢者 (3) 高齢期の生活課題	○			◎	
		第2章 子どもと共に育つ	1 命を育む (1) 人間の愛と性 (2) 子どもの誕生	◎	○			
			2 子どもの育つ力を知る (1) 子どもの育つ力 (2) 生まれつき持っている能力 (3) 身体の発達 (4) 心の発達 (5) 遊びの発達	◎		○		
	2		3 親として共に育つ (1) 子どもの発達と保育 (2) 子どもの生活と保育	○	◎			
			学年末考査	○	○	○	◎	備考
	3		(3) 親として育つ		○		◎	
			手作りおやつ		○		◎	
		4 これからの保育環境 (1) 現代の子育て環境 (2) 地域社会の関わり	○		◎			

※評価の観点 ①：関心・意欲・態度 ②：思考・判断・表現 ③：技能 ④：知識・理解

◆学習方法のポイント

【家庭総合は総合学習】

- 家庭総合はすべての高校生が学ぶ家庭科の基礎科目のひとつです。
- 小学校・中学校で学習した様々な教科の学習内容を総合し、それらを実生活に活かし、よりよい生活を目指していく科目です。高校生として、これから自らが家庭・家族を創造する主体として、生活の様々な場面でどのように行動するのかを考えるとともに、基礎的・基本的な知識・技術を身につけていきます。
- 授業に意欲的に取り組み、身に付けた基礎的・基本的な知識・技術を、積極的に実生活に活かしていきましょう。また、生活課題を見つけ、その解決を目指して考えを深め、実践していきましょう。

【授業】

- 1、2年次に週に2時間の授業があります。
- 1年次ではおもに「人の一生と家族」「高齢者の生活と福祉」「衣生活」「子どもと保育」について学習します。
- 単元や学習内容により、授業のすすめ方は様々です。時間毎に示される学習目標に到達できるよう、目標をもって授業に臨みましょう。
- 一般的・総合的な学力・知識が求められます。少なくとも中学校までのすべての教科の学習内容を理解しておきましょう。また、社会の変化や情報に関心を持ちましょう。
- ノートは板書だけでなく、口頭で示された重要ポイントも記しておく、復習する時や実習・実践の時に役立ちます。
- 学習した内容について家族と話し合ったり、家庭で実践することで、思考が深まり知識や技術が身につきます。

【家庭学習】

- 日々の生活に関心をもつとともに、積極的に家事に参加し、家族の一員としての役割を果たしましょう。
- 日々の生活の中で見つけた課題を、学習成果を活用し、解決しましょう。(ホームプロジェクトの実践)

【定期考査】

- 学期末に考査を行います。考査範囲が広いですが、まんべんなく復習しましょう。
- 重要単語だけを暗記するようなことはせず、言葉の意味や背景、課題などと合わせ総合的に理解をするよう努めましょう。
- 板書だけでなく、メモを活用し、授業内容を復習しましょう。
- 実習内容を振り返り、実習のポイントとその理由について復習しましょう。

◆評価の方法、基準

評価の方法	定期考査、授業や実習への出席状況及び学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況を①関心・意欲・態度②思考・判断・表現③技能④知識・理解の四つの観点から評価します。 実技テスト、定期考査をもとに総合的に評価します。	
評価の基準	1 学期	期末考査(全ての観点から評価しますが主に④を重視します。) 授業や実習への出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) 課題提出とその内容(主に②の観点から評価します。) 学習ノートの整理状況等(主に③の観点から評価します。)
	2 学期	期末考査(全ての観点から評価しますが主に④を重視します。) 授業や実習への出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) 課題提出とその内容(主に②の観点から評価します。) 被服製作実習への取り組みと作品のできばえ等(主に①③の観点から評価します。)
	3 学期	期末考査(全ての観点から評価しますが主に④を重視します。) 授業や実習への出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) 課題提出とその内容(主に②の観点から評価します。) 学習ノートの整理状況等(主に③の観点から評価します。)
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均をもとに評価